

### 1. 背景とねらい

ニホンナシ「あきづき」は、近年、原因不明の果肉障害の発生(図1)が問題となっており、生産上の不安要因となっています。そこで、「あきづき」の果肉障害の発生軽減に有効と思われるエテホン処理および摘果時期の早晩について、障害発生程度との関係を検討しました。



### 2. 成果の内容

#### (1) 摘果時期の早晩 (表2)

- ・摘花によりコルク状果肉障害の発生は軽減されます。
- ・満開後40日頃の遅い予備摘果は、水浸状果肉障害の発生を助長し、コルク状果肉障害の重症果率が高くなります。

#### (2) エテホン処理の効果 (表3)

満開後100日頃にエテホンを100ppmで散布することで、コルク状果肉障害が軽減されますが、水浸状果肉障害や維管束褐変の発生は助長されます。



図1 果肉障害の種類

a: 水浸状果肉障害 b: コルク状果肉障害 c: 維管束褐変

表1 障害程度の分類基準

大きさ	発生個数					
	1個	2個	3個	4個	5個	6個以上
ゴマ粒大	無	無	無	少	少	中
米粒大	少	少	少	少	中	中
小豆大	少	少	中	中	中	多
1cm以上	多	多	多	多	多	多

表2 予備摘果時期が「あきづき」果肉障害の発生率<sup>2)</sup>に及ぼす影響(2018年)

処理区 <sup>x</sup>	水浸状果肉障害(%)		コルク状果肉障害(%)		維管束褐変(%)	
	発生率	(重症果率 <sup>y</sup> )	発生率	(重症果率)	発生率	(重症果率)
摘花区	8.5	1.7	1.7	1.7	27.1	10.2
20日後摘果区	5.4	0.9	5.4	0.9	13.5	3.6
40日後摘果区	14.8	2.8	4.6	4.6	13.0	4.6

<sup>2)</sup> 処理側枝の障害果の合計/処理側枝の全調査果の割合。障害果は「少」「中」「多」に分類されたもの。

<sup>y)</sup> 障害程度「中」「多」に分類された果実の割合

<sup>x)</sup> 各区1果そう1果(1花)に摘果(実施日…摘花区:4/19、20日後摘果区:5/3、40日後摘果区:5/22)  
仕上げ摘果は全ての処理区で6/1(満開後51日)に実施した

表3 エテホン処理<sup>2)</sup>が「あきづき」果肉障害の発生<sup>y)</sup>に及ぼす影響(2017年)

エテホン 処理	水浸状果肉障害(%)		コルク状果肉障害(%)		維管束褐変(%)	
	発生率	(重症果率 <sup>x</sup> )	発生率	(重症果率)	発生率	(重症果率)
あり	8.0	8.0	0.0	0.0	4.0	4.0
なし	0.0	0.0	27.6	13.7	0.0	0.0

<sup>2)</sup> エテホンは「エスレル10」を満開99日後(2017年7/26)に1,000倍で枝処理

<sup>y)</sup> 障害程度「少」「中」「多」に分類された果実の割合

<sup>x)</sup> 障害程度「中」「多」に分類された果実の割合

### 3. 成果の活用

ニホンナシ「あきづき」の果肉障害発生対策のための参考技術として活用できます。